



## 第2分科会

### 「豊かな社会ってどんな社会？」～SDGsの視点から考える～

●担当：阿部真理子（認定NPO法人IVY）

●協力者：

●分科会の狙い・目的：

・「持続可能な社会」を具体的にイメージすることで、SDGsを自分との関わりの中で捉えるようになることを目指す。

・わたしたち一人一人が考える「豊かな社会」は同じなのか、SDGsが目指す「誰ひとり取り残さない」「持続可能な」社会・地域とは、どんな社会・地域なのかを話し合い、背景や年代によっても目指す地域・社会がそれぞれ違うことを認識する。


・SDGsの成り立ち、概要、全文を紹介することで、SDGsとは？という疑問に答える。

●参加者：30名

#### 1. 分科会内容と成果・結果

活動内容	詳細
IVYの活動紹介	IVYが行なっている事業の紹介。 IVYの国際協力活動を通して、日本のODA事業を紹介。
ワークショップ ファシリテーター： 阿部真理子	<p><u>1 豊かな社会にとって必要なことは？</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 18枚のカードから、豊かな社会にとって必要だと思うカードを選ぶ。</li> <li>2) 選んだカードをグループ内で紹介し合う。</li> <li>3) グループを一つの地域と捉え、持続可能で豊かな地域にとって必要なカードを3枚選ぶ。</li> <li>4) グループでどのカードを選んだか、発表を行う。</li> </ol> <p>コメント：グループでカードを3枚選ぶ作業では、最終的に3枚に絞りきれなかったグループが7チーム中4チームもあり、それぞれの思いを一つにまとめる難しさを感じた参加者も多かった。</p> <p><u>2 コンパス分析</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 1枚の写真を見て、「気が付いたこと」「疑問に思ったこと」などを、4つの側面（自然、社会、経済、誰が決めたのか？）で分けていく。</li> <li>2) 写真に写っている地域で起こった出来事について、資料を参考にしながらグループで共有。</li> <li>3) その地域では、その出来事に対してどのように住民は動いたのかを考える。</li> <li>4) 実際にどのように住民が行動したのかを説明する。</li> </ol> <p>コメント：メガソーラー建設が持ち上がった地域の事例を取り上げたことにより、地域とSDGsの関連性を捉えること、「参加」という概念を実感することが出来たようだ。</p>



説明：阿部真理子	<p><b>3 SDGs とは何か？</b></p> <p>SDGs が出来るまでを説明した。</p> <p>環境国際会議年表、成長の限界、エコロジカル・フットプリントを紹介した。</p> <p>MDGs との比較。</p> <p>「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の構成、アジェンダの前文の紹介。</p>	
	<p>コメント：SDGs は、最近様々な場面で取り上げられているが、今回紹介した「成長の限界」は初めて知る方も多かった。</p>	

## 2. 使用した教材や参考資料

- ・ 「豊かさと開発」(特活) 開発教育協会発行
- ・ 「基本解説 そうだったのか。SDGs」(一社) SDGs 市民社会ネットワーク発行
- ・ 持続可能な開発目標と包摂的な開発 POST2015/UNU-IAS ポリシーブリーフ#5
- ・ 国連持続可能な開発会議(リオ+20)とは何か? 「環境・持続社会」研究センター(JACSES)
- ・ 地球1個分の暮らしの指標～ひと目でわかるエコロジカル・フットプリント～(WWFジャパン)
- ・ 足守・大井・粟井地区の太陽光発電所建設計画(あしもり遊学舎)

## 3. 参加者アンケート

参加者のご所属などについて(N=30)

教職員 (小・中・高・ 大学)	公務員	国際協力 交流団体	民間企業	中学生	高校生	大学生	その他
9	1	2	2	1	10	0	5

参加者の年代について(N=30)

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上
11	3	1	7	5	3

参加者のこれまでのフォーラム参加回数について(N=30)

初めて	2回目	3回目	4回以上
13	6	2	9

参加者の分科会への満足度について(N=30)

大変満足	満足	普通	あまり満足 できなかった	不満足
19	9	2	0	0

#### 4. 担当者所感

【ファシリテーター：阿部真理子（認定 NPO 法人 IVY）】

最近「SDGs」が登場する場面が増えています。SDGs に関するセミナーやワークショップも、いろいろなセッションで行われており、色別になった 17 の目標のロゴが貼られ、17 の色で作られたバッジを付けている人も。国際関係の人だけでなく自治体、企業で働く人たちからも SDGs という言葉が聞かれます。しかし、SDGs がなぜ作られたのか、17 のゴールは、実は「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の構成要素の 1 つであることを知っている人はあまり多くありません。

そこで、今回のフォーラムでは、SDGs の入門編という位置付けで分科会の内容を組み立ててみました。プログラムの中で参加者にとって一番印象に残ったのが、メガソーラー発電に対する地域の動きを扱ったワークでした。17 のゴールは「経済・社会・環境」の 3 側面を網羅していますが、メガソーラー発電の出来事は 3 つの側面から地域を見るのに適した素材となっています。自然エネルギーであるメガソーラー建設が、「持続可能な地域」を可能にするのか様々な視点で検証していき、自分なりの賛否を考えていくプロセスの中で、地域社会への参加とはなにかを意識していく内容になっています。地域社会で起こっていることに対して、自分の意見を反映させることをわたしたちは普段ほとんど意識していないことにも気付きます。持続可能で豊かな地域を作っていくのは誰なのかと問われた時、わたしたちはなんと答えるのかを、この分科会を通して考えてほしいと思い企画しました。

いざやるとなると、あれもこれも入れたくなくなってしまいます。結果、最後の SDGs の説明部分の時間が足りなくなってしまう、SDGs そのものに対してグループでの話し合いが出来なかったのは反省点です。参加者の感想にもありましたが、様々な視点から見ることで、日本の地域を SDGs の視点で捉えることなどを通して SDGs が身近な問題なのだと感じてもらえたとしたら、分科会の目的はある程度達成出来たと思います。